

(英語版)

(アラビア語版)

令和元年十月

## 指導力が問われるサウジ新石油相アブドゥルアジズ王子(ABS)

### 1. サウジ新エネルギー相に初の王族

サウジアラビアのエネルギー相が Al-Falih からアブドゥルアジズ・ビン・サルマン王子(以下 ABS)に交替した。新大臣は 59 歳(1960 年生)、サルマン国王の 4 男でありムハンマド皇太子(以下 MBS)の異母兄である(「[サルマン国王家系図](#)」参照)。1960 年のタリキ石油・鉱物資源相を初代とする石油大臣は、その後のヤマニ、ナゼル、ナイミエそして先代の Falih に至るまでいずれもテクノクラートであり、王族大臣は初めてである。世間はこのことに驚いている。

ABS 新大臣は 1982 年に石油鉱物資源大学(SUPM)を卒業、1987 年にナーゼル石油相(当時)付きとしてキヤリアをスタートして以来一貫して石油(エネルギー)省に勤務するベテランのオイルマンである。その間には日本との合弁事業であるアラビア石油の取締役、あるいは OPEC 本部勤務の経験もあり、2015 年以来エネルギー・鉱物資源省副大臣として Al-Falih 前大臣をサポートしてきた(ちなみに王子と前大臣は SUPM の同期生)。王子の 60 年近くにわたる経験は申し分なく、また内外にわたり石油業界に広い人脈を有し、彼の今後の活躍に疑問を挟む余地はなさそうである。



但し義弟でありながら今やサウジアラビアの実質的な独裁者である MBS との関係は微妙である。また石油問題は今や国際的な政治問題と深く関連している。同じ OPEC 加盟国であるイラン、あるいは非 OPEC の雄ロシアとの OPEC+ プラス協調問題に加え、世界最大の産油・ガス国であると同時に、サウジにとって不可欠の盟友である米国との関係など、アブドゥルアジズ新エネルギー相は複雑な外交力学に立ち向かわなければならない。

## 2. 王子の性格は？

実質的なデビューとなった9月のアブダビ石油会議におけるアブドゥルアジズ王子の言動を見る限り彼は見るからに育ちの良さを示す温厚な中年紳士である。OPECのBankind事務総長も王子は経験と知識に富み決して感情的にならないと高く評価している。但しこれを鵜呑みにはできない。任命の翌日Al-Faiy前エネルギー相と並んで記者会見を行ったとき、ABSは感極まって声を詰まらせるというemotional(感情的)な一面を見せている<sup>4)</sup>。



Arab Newsは、王子が大学以来の数十年に及ぶAl-Faiyとの交友関係を思い起こしたためと好意的に報じているが、少しうがった見方をすれば常にアラムコ出身のテクノクラートに後塵を拝し、さらには父サルマンの寵愛を受けて皇太子に上り詰めた28歳も年下の異母弟ムハンマドに対して、アブドゥルアジズは自分の出世が遅れた上に、異母弟の下に立つという現状に感情が高ぶったと考えられなくもない。

また石油政策を論じる彼の談話にはしばしば西洋文学あるいは話題のドラマから借用したpedantic(学術的)な表現が見られる。それは世界のエネルギー情勢を左右するサウジアラビアの石油相に必ずしもふさわしいとは思えない。例えば上記の記者会見で、王子は英国の人気ドラマ「Upstairs, Downstairs」にひっかけ、自分は階下の台所で国と国王のために働きたい、と答えている。またある時はサウジアラビアが2030年にエネルギーの輸入国になるのでは、との質問に、自分はラ・ランンドのシナリオを論じるほど暇では無い、と答えている。さらに最近のドローン攻撃に対する設備復旧見直しに対して「アラムコは不死鳥のごとくよみがえる」といった表現を連発している<sup>5)</sup>。

もちろん王子が着実に石油政策を実現するならば問題ないが、思惑通り運ばなかった場合に相変わらずpedanticな表現であいまいな取り組みに終始するなら、彼の国内外での信用が色あせると危惧するのである。

## 3. 今後懸念されるいくつかの問題

アブドゥルアジズ王子のエネルギー相としての力量はこれからの活躍次第であるが、彼の前には三つの大きな問題が立ちはだかっている。それは(1)異母弟ムハンマド皇太子との関係、(2)OPEC及びロシアを含めたいわゆるOPEC+プラスの舵取り、そして(3)石油と政治が絡みあう国際政治力学の中での米国、ロシアあるいはイランとの駆け引きの三つである。



アブドルアジズとムハンマドは異母兄弟であり、25歳の年齢差がある。異母兄弟の関係は微妙でありサウジアラビアでも第五代ファハド国王の子息の間で遺産相続を巡るお家騒動があり、また北朝鮮の金正恩体制では陰惨な義兄暗殺事件が発生していることでも分かるように問題のないほうが珍しい。MBSとMBSの関係がいずれ破綻することはほぼ間違いないと思われる(義兄のMBSが義弟のMBSに完全に服従すれば話は別だが)。父親のサルマン国王はそのような事態を恐れてMBSに権力を集中させようとしている。エネルギー・鉱物資源省をエネルギー省に改編し、MBSの管掌を石油に限定し、さらにこれまでに一体運営してきたアラムコをエネルギー省から切り離したのはその一つの表れであろう。

サルマンとしてはMBSに次期王位を継がせ、さらにはMBSの息子へと男子直系相続の道を開き、サウジアラビア(実質的にはサルマン家)の安定的な専制君主体制を維持することが悲願であろう。傲岸不遜、独裁的として内外から警戒されるMBSはむしろemotionalでpedanticと言われるMBSよりも体制維持の目的に適っている。サウジアラビアの権力闘争の中で権謀術策により国王の地位を勝ち取ったサルマンだからこそMBSを皇太子に据えたはずである。そのような見方に立てば、エネルギー相は早晩MBSと気脈を通じる彼と同世代の石油テクノクラートに交替するであろう(あるいはMBSの実弟ハリド・ビン・サルマンの可能性もある)。いずれにしても異母兄弟MBSに勝ち目のないことは明らかである。

次にOPEC及びロシアを含めたOPEC+プラスの舵取り問題を見ると、現在原油価格は80ドル/バレル前後(ブレント)で推移している。一般的にはOPEC+の生産調整が奏功していると考えられているが、OPEC各国の生産量を見ると、実際には米国の禁輸措置によりイランの生産が不振を極め、あるいはベネズエラに対する米国の経済制裁と同国の内政の混乱、そしてリビアの内戦が大きな要因でありOPEC+の協定による生産調整の結果ばかりとは言いきれない。実際、イラクは増産しており、非OPECのロシアもコミットした削減を引き延ばしてきたのが事実である。世界の需給関係を見ると、米国はシェールオイル・ガスの増産を続け、今や世界一の石油・天然ガスの生産国になっている(BPエネルギー統計による)。一方需要面では米中貿易摩擦により世界景気に後退の兆しが見え、石油価格は今後下落するとの予測が少なくない。このような環境下でサウジアラビアの真価が問われているが、MBSが強力な指導力を発揮できるのか疑問なしとしない。

石油と国際政治はこれまでも密接に絡みあっていたが、今やサウジアラビアは米国、ロシア、イランとの複雑な合従連衡の関係を解きほぐしつつ、唯一の財源である石油収入の最大化を図るといふ難しい課題を背負っている。米国の軍事支援なしではイエメンをめぐるイランとの代理戦争に勝てないサウジアラビア。ロシアとはOPEC+プラスで石油価格維持を目指しながらも、米国に気兼ねしてロシアとの距離感に悩むサウジアラビア。宗教国家イランを最大の脅威と見なし世俗絶対王制の維持に必死のサウジアラビア。産油国家としてロシア、イランと利害を共有する一方、米国の石油産業の動向に神経をとがらせるサウジアラビア。軍事外交面ではサウジアラビアは米国に唯々諾々と従い、イエメンで泥沼に陥っている。地域問題では対イラン制裁の旗振り役を担っているが、シリアではロシアとイランが地歩を固めるなど守勢一方である。このようにサウジアラビアは米国、ロシア及びイラン各国と時に応じて手を結び、一方では各国をけん制する綱渡り外交を強いられている。

エネルギー相のAbsもこれらのジレンマ、トリレンマから無関係ではいられない。国際会議の席上でpedanticな言動を弄するだけでは問題は解決せず、遅かれ早かれ馬脚を現す恐れが大きい。Absがエネルギー相として君臨するのはさほど長期間とは思えないのである。

以上

本件に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

荒葉一也

[Arehakazuya1@gmail.com](mailto:Arehakazuya1@gmail.com)

ホームページ:OCIN INITIATIVE(<http://ocininitiative.maeda1.jp/index.html>)

(目次)

---

<sup>1</sup> Prince Abdulaziz bin Salman appointed Saudi Minister of Energy  
2019/9/8 Saudi Gazette

<http://www.saudi Gazette.com.sa/article/576685/SAUDI-ARABIA/Prince-Abdulaziz-bin-Salman-appointed-Saudi-Minister-of-Energy>

<sup>2</sup> レポート「石油・ガスの生産と消費」米国が四冠：BP エネルギー統計 2019 年版石油＋天然ガス篇」参照。  
<http://mylibrary.maeda1.jp/0479BpOilGas2019.pdf>

<sup>3</sup> Saudi Prince Abdulaziz bin Salman s oil diplomacy makes mark at Opec+ meeting debut  
2019/9/13 Gulf News

<https://gulfnnews.com/business/energy/saudi-prince-abdulaziz-bin-salmans-oil-diplomacy-makes-mark-at-opec-meeting-debut-1.66398765>

<sup>4</sup> Oil output deal is here to stay, new Saudi minister vows  
2019/9/9 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1551986/saudi-arabia>

<sup>5</sup> Saudi energy minister says oil output to be fully restored by end of the month  
2019/9/17 Arab News

<https://www.arabnews.com/node/1555711/saudi-arabia>

<sup>6</sup> レポート「石油・ガスの生産と消費」米国が四冠：BP エネルギー統計 2019 年版石油＋天然ガス篇」参照。

<http://mylibrary.maeda1.jp/0479BpOilGas2019.pdf>